

令和8年2月13日

世田谷区立松沢小学校
校長 寺崎 晶子 様

世田谷区立松沢小学校
学校関係者評価委員会
委員長 藤森 裕基

令和7年度世田谷区立松沢小学校 学校関係者評価委員会報告書

令和7年度学校関係者評価の結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

学校におかれましては、この報告書を今後の学校運営にご活用いただき、より一層児童の健やかな成長が図られますようお願い申し上げます。

I 調査実施時期・対象（回収数・率）

- (1) 実施時期：令和7年11月7日から11月20日まで
- (2) 実施対象：児童（5・6年生）、保護者（家庭数）、地域
- (3) 回答数（回答率）：児童242人（88.3%）、保護者485人（65.0%）、地域22人（48.9%）
- (4) 回答方法：オンライン

II アンケート調査結果（別紙）

Ⅲ 考察

※ 以下の考察において、肯定的回答とは「とても思う」「思う」の合計、否定的回答とは「あまり思わない」「思わない」の合計である。それ以外に「分からない」との回答選択肢もアンケートにはある。

(1) 児童対象（5年、6年対象）

評価の高いまたは増減が顕著な設問項目

設問	評価委員のコメント
・学ぶことは楽しい	昨年度からの新設問、今年度の肯定的回答は74.4%で昨年度比11.1%増、否定的回答は21.1%、昨年度比12.2%減となり、肯定的回答が増え、否定的回答が減った。昨年度では「6.全般について」の設問「学校生活は楽しい」の肯定的回答と比べて、24%の差があったが、今年度は12.8%差となり、学校を中心とした生活の充実ぶりが伺える。
・先生に注意されたことは理解できる	肯定的回答が全設問最高値の90.9%。昨年度比4%増であるが、「わからない」が16.3%減となり、理解が進んだことがわかる。
・運動に意欲的に取り組んでいる	否定的回答が27.2%で全設問中の最高値。肯定的回答は6.1%減、否定的回答は1.7%増となり、併せてマイナス7.8%となった。運動時間捻出が困難の兆しか。

1 学習について

昨年度新設された設問「学ぶことが楽しい」の肯定的回答は74.4%で否定的回答は21.1%。肯定的回答は昨年度比11.1%増、否定的回答が同12.2%減となり、総体的に“楽しい”と思える児童が増えたことがわかる。昨年度が設問初年度であり経年比較ができなかったため、昨年度は「6.全般について」の「学校生活は楽しい」と比較し、この点でも経年での経過観察が必要とした。「学ぶことは楽しい」は昨年度肯定的回答63.3%⇒今年度同回答74.4%、「学校生活は楽しい」は昨年度肯定的回答87.3%⇒今年度同回答87.2%。「学校生活は楽しい」は高い水準で安定しているが、「学ぶことが楽しい」はそれに及ばないまでも、肯定的回答が着実に増えている。学ぶことの楽しさを丁寧に伝えていることの賜物だと思われる。引き続きの指導をお願いしたい。

「先生は、課題（めあて）について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている（肯定的回答88.4%）」

「先生は黒板の書き方やプリントなどを工夫している（同79.3%）」

「授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある（同89.7%）」

昨年度に比べて微減だが、高い水準をキープしている。教師及び児童間で充実した相互理解が進んでいると思われる。

2 生活指導について

「私は、学校のきまりを守って、行動している（肯定的回答77.3%）」

「先生に注意されたことは、理解できる（同90.9%）」

「私は、学校のきまりを守って、行動している」が、一昨年度から昨年度にかけて、8.4%減となったが、今年度は8.4%改善し、肯定的な回答がふたたび7割台後半の水準に回復した。生活指導は簡単ではない部分も多々含まれるが、早急な対応に感謝したい。

3 学校行事について

「学校行事は達成感がある（肯定的回答83.8%）」

「先生は、児童の意欲を大切にしている（同82.7%）」

両項目共に昨年度は肯定的回答は7割台後半であったが、今年度は8割台に押し上げた。学校行事の楽しさは、年間の児童の一体感創出やモチベーションアップにも大きく影響する。高水準の維持をお願いしたい。

4 キャリア教育について

「自分の生き方や将来のことについて、考える授業がある（肯定的回答66.5%）」

「私は目標を持ち、その実現に向けて努力している（同72.4%）」

「自分の生き方や将来のことについて、考える授業がある」は昨年度比1.6%の微減、「私は目標を持ち、その実現に向けて努力している」は同6.8%増となった。「私は目標を持ち、その実現に向けて努力している」は減少傾向から増加に転じた。学校及び家庭において将来への不安や悩みを共有し、目標を明確化し具体的な行動へと繋がっているのではないか。自立する力を育むキャリア教育の重要性は更に増すと思われる。丁寧な指導をお願いしたい。

5 先生について

「先生たちは、ていねいに指導してくれる（肯定的回答87.2%）」

「先生たちに相談できる（同66.1%）」

「先生たちは、ていねいに指導してくれる」昨年度比肯定的回答5.7%減、「先生たちに相談できる」は同4%減の両項目ともに微減となった。決して低すぎることはない数値ではあるが、両項目共に先生と児童の信頼関係を表す項目であるため、注意深い対応をお願いしたい。

6 全般について

「学校生活は楽しい（肯定的回答87.2%）」

「私は、家庭で自分から学習（宿題等）をしている（同71.5%）」

「学校生活は楽しい」は昨年度比同等であり、学校生活の充実ぶりが伺える。また、「私は、家庭で自分から学習（宿題等）をしている」も6.7%の改善が見られた。家庭及び塾での学習活動は自主性の表れと同時に、“4 キャリア教育について「私は目標を持ち、その実現に向けて努力している」”の肯定的回答増とも連携していると推察される。将来の目標を定めると共に、それに伴う準備の意識が芽生えているのではないか。的確なフォローをお願いしたい。

7 自分のことについて

「気持ちのよいあいさつをするようにしている（肯定的回答78.5%）」

「安全に気を付けて生活をしている（同87.6%）」

「運動に意欲的に取り組んでいる（同66.6%）」

「相手の気持ちを考えて行動している（同86.7%）」

「気持ちのよいあいさつをするようにしている」「安全に気を付けて生活をしている」「相手の気持

ちを考えて行動している」は昨年度比微増で、肯定的回答は高い水準で維持されている。引き続きの指導をお願いしたい。また、「運動に意欲的に取り組んでいる」の肯定的回答は昨年度比 6.1%減、否定的回答は 27.2%で全設問で最高値となった。学習意欲向上に伴い、運動時間の捻出が難しくなっているのか、運動に対する苦手意識が高まっているのか。いずれにしても、運動と学習の両立は健全な成長に不可欠ではなかろうか。個々の児童の状態を適切に把握いただき、状況に応じた対応をお願いしたい。

(評価委員：大庭美幸・吉見明樹)

(2) 保護者対象

評価結果が顕著な設問項目

設問	評価委員のコメント
<p>肯定的回答の多かった項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本校は、教員が指導した学校での過ごし方やルールについて子どもが理解している ・ 本校は、様々な便りなどで、保護者に情報を提供している ・ 本校は、学校公開や保護者会などで、児童の様子が分かる ・ 本校は、ホームページやメールなどで、保護者に情報を提供している ・ 私は、学校公開にすすんで参加している 	<p>生活指導および学校からの情報提供に関する項目についていずれも 9 割前後であり、保護者として満足度が高い。</p> <p>保護者自身も学校公開にすすんで参加しており（肯定的回答 91.7%）、子どもの様子に興味があることが伺える。</p>
<p>否定的回答の多かった項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 私は、学校行事、PTA や地域主催の行事などにすすんで協力している ・ 本校の子どもたちは、相手を思いやる言葉を使っている ・ 子どもは、家庭で自主的に学習をしている ・ 本校の子どもたちはあいさつをよくしている ・ 本校の教員は、子どもに目標をもたせ、その実現のために支援している 	<p>「保護者の行事への協力（否定的回答 39.7%）」と多かったものの昨年度より 5%減。「子どもの自主的な学習（否定的回答 30.9%）」であるが昨年度より 10%減。消極的な割合が減った結果となったことは喜ばしい。</p> <p>「子どもたちの思いやる言葉（否定的回答 25.7%）」、「あいさつ（否定的回答 23.1%）」については引き続き重点的に指導いただきたい。</p>
<p>わからないという回答の多かった項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本校の教員は、子どもに目標をもたせ、その実現のために支援している ・ 本校の子どもたちはいのちを大切に考えている ・ 本校の子どもたちは相手を思いやる言葉を使っている ・ 本校の子どもたちはすすんで運動に取り組んでいる ・ 本校は、地域の人や施設を教育活動に活かして 	<p>「教員の目標実現への支援（わからない 17.3%）」、「いのちを大切に（わからない 22.9%）」はいずれも指導内容が子どもに伝わったのかわかりづらい抽象的な質問であるため質問内容を具体的にし、課題を具体的に把握することがよいかと考える。</p> <p>「相手を思いやる言葉（わからない 16.1%）」、「すすんで運動（わからない 14.2%）」、「地域を趙育に活かす（わからな</p>

いる	い9.7%)」は学校での取り組みが保護者に伝わっていないことからの結果であることが推察された。
----	---

1 学習指導について

「本校は、子どもが考えることや、課題を解決することを大切にした授業を行っている（肯定的回答79.6%）」

「本校は、子どもが考えたことを話し合ったり発表したりする機会がある（同83.3%）」

先生からの一方的な指導ではなく、子どもたちが主体的に取り組む授業に工夫いただいていることは、思考し表現していくことが求められる昨今、保護者としては大変ありがたく思う。

2 生活指導について

「本校は、教員が指導した学校での過ごし方やルールについて子どもが理解している（肯定的回答88.3%）」

昨年度から約8%増加。校長先生をはじめ先生方からの直接の言葉が子どもたちに響いているのだろうと考える。松沢小の決まりを種々のタイミングで掲載・リマインドするなどの数年間の成果も出てきたのではないかと。子どもがルールを理解した上で生活できることはありがたい。

3 学校行事について

「学校行事は、子どもにとって達成感がある（肯定的回答85.7%）」

「本校は、子どもの意欲を大切にしている（同85.2%）」

達成感については高評価であるものの昨年度から約5%の減少。今年度から土曜授業がなくなり行事に費やす時間が減ったこと、また今年度は運動会や音楽発表会前のインフルエンザの流行もあり、準備不足となったことも一因なのかと考える。個人目標・学年目標に向かって仲間とともに頑張ることのでられる達成感はずいぶん小学校時代に経験して欲しいため、賛否あると思うが、順位をつけるなど優劣を競い合う場面は意図的に必要なのではないかと考えざるを得ない。また、行事に対する準備は早めに取り組み始めるようスケジュール化していただきたい。

4 キャリア教育について

「本校の教員は、子どもに目標をもたせ、その実現のために支援している（肯定的回答62.7%）」

昨年度より約3%の微増であるものの更なる向上の余地があると思われる。学年により職業談や商店街の方のお話を聞いたり、和 문화等の体験があったり、保護者の職業を紹介してもらったり、職業を知る機会は一定以上設けていただいていると評価できる。保護者の職業体験談については、4年生以外でもオンライン視聴するまたはクラス単位を超え、自分が好きな職業の話を選んで聞く等工夫を重ねていくとより自分事として考えられるのではないかと考えられる。

5 教職員について

「本校は、丁寧に指導している（肯定的回答83.8%）」

「本校は、子どものことを相談しやすい（同76.5%）」

いずれも昨年度より2%ほど微減したが高評価。日々の丁寧なご指導に感謝する。子どもの相談という観点では2学期が保護者会ではなく個人面談になったことで相談しやすい環境が増えたと考える。

6 学校からの情報提供について

「本校は、様々な便りなどで、保護者に情報を提供している（肯定的回答 89.3%）」

「本校は、学校公開や保護者会などで、児童の様子が分かる（同 90.3%）」

「本校は、ホームページやメールなどで、保護者に情報を提供している（同 89.6%）」

便り、ホームページやメールなどでの情報提供にはいずれも約9割の高評価。学校公開等の保護者が様子を知る機会についても9割超えて満足度は高い。加えて、重要度の高い情報は子どもが親に直接忘れずに伝えられるような指導を希望する。

7 家庭と学校との連携について

「私は、学校公開にすすんで参加している（肯定的回答 91.7%）」

「私は、学校行事、PTA や地域主催の行事などにすすんで協力している（同 56.3%）」

学校公開への参加は9割超えの高得点となった。平日に加え、土曜日にも公開日を設定いただいていることが仕事を持つ保護者の参加率向上につながっているのではないかと。保護者が学校に協力するためにも、土曜日の公開授業日は次年度以降も継続して欲しい。学校行事、PTA や地域主催の行事への協力は56.3%と低いが昨年度より5%増。PTA よりハードルの低いボランティアへの参加率を上げる施策が有効なのではないか。

8 地域との連携について

「本校は、地域の人や施設を教育活動に生かしている（肯定的回答 77.5%）」

昨年度より微増。地域の方には読み聞かせ、どきどき土曜スクール、わくわく体験教室等、様々な場面でご協力いただいているが、保護者が参加していないため保護者にまで伝わらないのが原因ではないか。HPには活動を掲載いただいているが、定期的にHPを見ていない保護者も多いため、保護者会や学校公開期間に活動の様子を写真や動画で共有するなどしてはどうだろうか。

9 松沢小学校について

「本校の子どもたちはあいさつをよくしている（肯定的回答 67.4%）」

「本校の子どもたちはいのちを大切に考えている（同 66.8%）」

「本校の子どもたちはすすんで運動に取り組んでいる（同 67.4%）」

「本校の子どもたちは、相手を思いやる言葉を使っている（同 58.2%）」

「あいさつをよくしている」は1.4%増加。「いのちを大切に考えている」は1.7%増加。「すすんで運動に取り組んでいる」は0.5%減少。「相手を思いやる言葉を使っている」は半数程度で依然低いが3.9%増加。いずれも松沢小の重点項目であるため8割を超えるよう取り組んでいただきたい。松沢小で力を入れている道徳授業の内容が保護者にも伝わるとよいのではないかと。いのちの大切さ、相手を思いやる言葉については学校と家庭で協力し、子どもを取り巻く環境の整備と指導に力を入れていきたい。

10 全般について

「本校の学校生活は、子どもにとって楽しい（肯定的回答 87.6%）」

「本校の教育活動に満足している（同 78.0%）」

「子どもは、家庭で自主的に学習をしている（同 66.4%）」

高評価ではあるが、「学校生活は楽しい」と「教育活動に満足」は昨年度より減少。毎日の学校生活

が楽しくなるよう、勉強だけでなく、子ども同士の交流についても引き続きの工夫を希望する。「家庭で自主的に学習をしている」では肯定的回答が少ないものの8.3%の増加となったことは喜ばしい。ロイノート等 ICT の活用も進み、自主的な学習が定着してきたのではないかと考える。

(評価委員：大島友佳子・由井麻美)

(3) 地域の方々対象

評価結果が顕著な設問項目

設問	評価委員のコメント
肯定的回答の多かった項目 ・ 子どもたちは楽しそうに学校に通っている ・ 学校からのお知らせなどにより学校の様子が分かる 等すべての項目	72.7%～90.9%と10項目すべての項目で肯定的評価が高い数値を得ている。地域の方々の学校の教育方針に対する信頼が伺える。
否定的回答の多かった項目 ・ 通学している子どもたちは交通ルール等を、守っている ・ 学校公開や公開講座などで学校の様子が分かる	「交通ルールを守っている(否定的回答18.2%)」「学校公開や公開講座などで学校の様子が分かる(同13.6%)」は否定的回答が多いが、すべての項目で20%以下になっている。
わからないという回答の多かった項目 ・ 学校の重点目標がめいかくである ・ 地域の意見に対して学校は丁寧に説明対応している ・ 学校運営委員会は活動を周知し役割を果たしている	昨年度に比べ左記の3項目共に13.6%であり、否定的回答を合わせても27%と全体的に低くなっている。学校運営に関しては、地域の方々には周知も難しくわかりづらい。 ホームページなどで学校の様子を毎日更新発信している努力が伺える。 学校と地域の方々とのコミュニケーションは、非常に重要である。今後も取り組みを継続して欲しい。

本校は商店街の中心ともいえる位置にあり、町会、自治会、多くの商店街関係者の方々や学校関係の委員、近隣の幼稚園、保育園、介護団体などに日頃からご協力をいただいています。地域の皆様からの学校へのご支援に感謝申し上げます。

1 生活指導について

学校が商店街に面しているため、地域の方々が児童を見る機会が多いのは、登下校の時である。特に商店街エリアは、その時間帯に通行止めをしている、通行止めエリア外も通学路になっており、特に危険で今後も学校からの定期的な指導と地域の方々の多くの目で見守りを継続して欲しい。

2 学校からの情報提供について

年間を通して、「学校だより」「学校運営委員会だより」を地域に配布し高評価を得ている。地域の方の高齢化に伴い、興味も薄れているように感じられる。また、ホームページは毎日更新して児童

の様子や学校の様子もわかる。SNS を活用した情報発信は現在欠かせない存在になっているので、更新する担当の教職員は大変だとうが、今後も継続して欲しい。

3 学校運営について

「学校の重点目標が明確である」「地域の意見に対して、学校はていねいに説明、対応している」共に 7 割の肯定的回答があった。目指す学校像の中に、「地域を共に子どもを育てる学校」も掲げている。今後も更に地域の特徴を活かした教育を積極的に行って欲しい。

4 地域との連携について

「地域の人や施設を教育活動に活かしている」「学校運営委員会は役割を果たしている」は 8 割を超える高い評価を得ている。

本校は、商店街の中心ともいえる場所にあり、地域の特徴を活かした授業をしていることが伺える。また日本大学文理学部もあり、学生の教育活動にも生かされている。さらに学校運営委員会も活発な活動をおこなっていることが伺える。

5 松沢小学校について

「子ども達は挨拶ができる」は肯定的回答が 86.4%と昨年度に比べ 15.7%増えている。学校としては「知らない人と関わらないように」と教えているが、地域のアンケートに回答された方は、学校行事に参加している方が多いのかもしれない。

「子ども達は楽しそうに学校に通っている」は、今年度も肯定的回答が 90%を超える高い評価となった。学校では、登下校時に先生に元気に挨拶する姿をみることができ、子ども達にとって学校が楽しいことは、地域にとって非常に好ましく、引き続き楽しい学校運営をお願いしつつ、地域の方々にはこれからも温かく見守って欲しい。

6 アンケートについて

地域の回答数が少なすぎる傾向にあり、正確な情報を得るには、アンケートの回答数を増やす工夫が必要に思われる。

(評価委員：石井健夫・永井紀之)

IV まとめ

本年度のアンケート結果の評価を、まずは「評価の高い設問」5問と「評価の低い設問」5問（地域は4問）に区分して、それぞれの評価内容を総括した。「評価の高い設問」は、本校の最も優れた特色であり、「評価の低い設問」は次年度の優先課題となるものである。総合所見では本校の重点目標を、本年度のアンケートを基に検証した。

1 今年度の評価結果に関する成果と課題

〈表-1〉【評価の高い設問】

区分	設問	評価委員のコメント
児童	<ul style="list-style-type: none"> 先生に注意されたことは、理解できる 授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある 先生は、課題（めあて）について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている 安全に気を付けて生活をしている 先生たちは、ていねいに指導してくれる 	<p>9割近い高評価で、先生の授業や生活指導に関して、子どもがきちんと理解し、満足していることが伺える。</p>
保護者	<ul style="list-style-type: none"> 私は、学校公開にすすんで参加している 本校は、学校公開や保護者会などで、児童の様子が分かる 本校は、ホームページやメールなどで、保護者に情報を提供している 本校は、様々な便りなどで、保護者に情報を提供している 本校は、教員が指導した学校での過ごし方やルールについて子どもが理解している 	<p>およそ9割以上の高評価で、学校行事や学校からの情報提供について保護者の満足度が高いことが伺える。</p> <p>保護者は学校公開に積極的に参加し、先生からの生活指導に関しても満足しているようである。</p>
地域	<ul style="list-style-type: none"> 学校からのお知らせ（学校だより）などにより、学校の様子が分かる 子どもたちは楽しそうに学校に通っている 子どもたちはあいさつができる 学校のホームページに、学校からのお知らせや学校生活の様子が分かる情報が掲載されている 地域の人や施設を教育活動に活かしている 	<p>8割～9割を超える高評価である。</p> <p>学校からの情報発信が地域の方々にきちんと届いていることが伺える。また、子どもたちが楽しく学校生活を送っていると感じているようである。</p>

全体として、ホームページ等を通じた学校からの情報発信が高く評価された。昨年度スマートフォンに対応したホームページへとリニューアルしたことが、この高い評価の要因であると考えられる。今後も十分な情報発信を続けていきたい。

児童に対するアンケートからは、授業に関する満足度が高く、学校行事・学校生活を楽しんでいる様子が確認できた。また、例え学校で良くない行動等により先生から注意を受けたとしても、そのこ

とをきちんと理解している。これらは先生方の指導のおかげである。

〈表-2〉【評価の低い設問】

区分	設問	評価委員のコメント
児童	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運動に意欲的に取り組んでいる ・ 私は、家庭で自分から学習（宿題等）をしている ・ 先生たちに相談できる ・ 自分の生き方や将来のことについて、考える授業がある ・ 学ぶことが楽しい 	否定的回答が、「分からない」も含めると 25%を越える設問である。
保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私は、学校行事、PTAや地域主催の行事などにすすんで協力している ・ 子どもは、家庭で自主的に学習をしている ・ 本校の子どもたちは相手を思いやる言葉を使っている ・ 本校の子どもたちはあいさつをよくしている ・ 本校の教員は、子どもに目標をもたせ、その実現のために支援している 	否定的回答だけで 20%を、「分からない」も含めると 30%を越える設問である。保護者は学校行事等になかなか協力できないようである。自分の子どもに対しても厳しく評価しているようである。
地域	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通学している子どもたちは、交通ルールなどを守っている ・ 学校公開や道徳授業地区公開講座などで学校の様子が分かる ・ 学校の重点目標が明確である ・ 地域の意見に対して、学校はていねいに説明・対応している 	否定的回答が、「分からない」も含めると 20%を越える設問である。より一層、地域の方々へ向けての情報発信が望まれる。

評価の低い設問であるが、1問を除いて、肯定的回答は皆 60%を越えている。焦ることなく課題解決に取り組んでいただきたい。

その中で肯定的回答が最も低かったのが保護者の「私は、学校行事、PTAや地域主催の行事などにすすんで協力している」であった。保護者は学校公開には多く参加しているのに、学校行事等に協力したい意思はあるが、仕事等の関係でなかなか協力できていないのが現状である。

2 総合所見

本校のスローガン「みんなで楽しく みんなが楽しく」は本校における学校教育の根幹をなすものである。本報告書では、今回のアンケートの結果を参考にスローガン実現のための重点目標に関して評価していく。

スローガン「みんなで楽しく みんなが楽しく」

目標1 だれ一人取り残さない学校（共生社会を目指したインクルーシブ教育の充実）

インクルーシブ教育（包括的教育）とは、子どもの多様性を尊重し、障がい、国籍、性別等に関わらず、すべての子どもが同じ環境で共に学ぶ教育である。本校はインクルーシブ教育を充実させてだれ一人取り残さない教育を目標の一つとしている。本年度のアンケートではこの目標に関する直接的な設問はないが、間接的な質問により評価する。

児童アンケートでは「授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある」「先生は、課題について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている」が共に肯定的回答が89.7%、88.4%と高く、主体的な授業の成果が上がっていると考えられる。その結果「相手の気持ちを考えて行動している」も肯定的回答が86.7%と他人を思いやれる気持ちが育まれているようだ。保護者からは、「本校の子どもたちはいのちを大切に考えている」は肯定的回答が66.8%であるが、「本校の子どもたちは相手を思いやる言葉を使っている」は肯定的回答が56.2%と相対的に低い。しかしながら5、6年生の保護者に関しては肯定的回答がそれぞれ62.8%、71.9%と高くなり、児童の成長が伺える。

「学校生活は楽しい」「学ぶことは楽しい」と肯定的に捉えている児童はそれぞれ87.1%、74.4%である。しかも昨年度に比べて「学ぶことは楽しい」児童は11%増加した。この結果本目標は達成されていると考えられる。しかし一方で、学校生活を「楽しくない」と感じている児童が8.7%おり、「分からない」を合わせると12.8%になる。つまり1クラスに3～4人は、学校生活に関して否定的に感じている児童がいることも事実である。学ぶことを「楽しくない」と思っている児童はさらに増えて21.1%であり、「分からない」を加えると25.6%となる。これは実にクラスの約1/4にあたる。これらを0にするのが教育の理想であり、目標であるが、それは大変難しいことである。そして学校生活や学ぶことを「楽しくない」と回答した児童のうち、半数以上は「先生たちに相談するのが難しい」と回答している。先生方には児童が先生たちに相談しやすい環境を作り出す努力をしていただきたい。また、保護者は76.5%が「先生たちに相談しやすい」と回答しているので、保護者と連携しながら問題解決に取り組み、「みんなで楽しく みんなが楽しく」過ごせる学校、「だれ一人取り残さない」学校を目指していただきたい。

目標2 教職員のチーム力を高め、教職員が輝く学校

まずは先生方が心身ともに健全で協力し合える環境作りが重要である。そこで本校では教職員の働き方改革に取り組み、その結果、アンケートの回答をみると、先生方は児童及び保護者から信頼されていることが伺える。児童からは「先生たちは、ていねいに指導してくれる（肯定的評価87.2%）」と評価が高いが、昨年度の92.9%からは低下している。今一度原点に立ち返り、ていねいな指導を意識し、教職員で協力しながら児童の教育に取り組んでいただきたい。

目標3 ICTを効果的に活用し、探究的な学びを追求する学校

本年度のアンケートではICTに関する設問は無かったため、直接的に検証することはできない。しかし、児童は授業に対して「先生は、課題について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている。（肯定的88.4%）」「先生は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している（肯定的79.3%）」「授業では、考えたことを話し合ったり発表しあったりする機会がある（肯定的89.7%）」と感じている。これは先生方が行っている主体的・探究的に学ぶ授業が評価された結果である。今後もICTを活用しながら継続していただきたい。

目標4 子どもの健康・体力向上に努める学校

残念ながら児童の「運動に意欲的に取り組んでいる」は否定的回答が 27.2%であり、全設問中最も否定的回答が多い設問であった。昨年度に比べても否定的回答が増加した。原因は分からないが、現在本校では校内研究として「みんなで楽しい、みんなが楽しい体育学習」を行っている。また学校運営委員会主催で「朝ラン」も行っている。これらを通じて、児童の運動に対する意識改善に取り組み、健康・体力の向上に努めていただきたい。

目標 5 地域と共に子どもを育てる学校

保護者は「本校は、地域の人や施設を教育活動に生かしている（肯定的回答 77.5%）」と高く評価している。地域の方々も「地域の人や施設を教育活動に活かしている（同 81.9%）」と感じている。

本校のホームページは昨年度スマートフォン対応へと大幅なリニューアルを行った。リニューアルに伴いコンテンツを充実させて見やすく配置し、学校日記を頻繁に更新するなどにより、保護者や地域の方々に情報が届くようになった。これは今回のアンケートからも明らかである。その結果、児童のみならず保護者、地域の方々を含めた「みんなで楽しく みんなが楽しく」が実現されつつあると感じている。これはホームページを通じての情報公開のみならず、学校運営委員会、学校地域支援本部、PTA、同窓会の皆様の協力のおかげであろう。深く感謝申し上げます。今後も教職員を中心として地域との連携を取り入れた教育を続けていただきたい。

3 最後に

昨年度同様、アンケートの結果は、児童・保護者・地域ともに、全体的にかなりの高評価となった。教職員の皆様が行っている質の高い教育活動が適正に評価されたと考える。来年度からは学校評価の方法等が大きく変わるが、今後も慢心することなく、校長・副校長先生をはじめ教職員の皆様が協力して、豊かな教育の実現に邁進していただきたい。

最後に、アンケートは本校に対する貴重な意見の集約である。回答にご協力いただいた、児童、保護者、地域の皆様に感謝申し上げますとともに、本報告書が今後の松沢小学校における児童教育の手助けとなることを願います。

世田谷区立松沢小学校 学校関係者 評価委員会

委員長 藤森裕基（日本大学文理学部）

委員 石井健夫・大島友佳子・大庭美幸・永井紀之・由井麻美・吉見明樹